

桑名文化協

平成16年3月9日

第 15 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361

文化協会10周年記念事業

野外ステージに集う

昨年の11月2日、桑名市吉之丸コミュニティパークにて、当協会創立10周年を迎えたのを機に、第12回桑名市民芸術文化祭とドッキングさせて、一まわり大きい記念事業を催しました。

この日は、幸いにも好天に恵まれて、市長を始め多くの来賓を招待し、舞台でも、寸劇やダンスなど多彩な催しに、会員や市民の皆さん一〇〇〇人が集い、有意義な一日でした。

特に、毎年の部門文化祭では同じジャンルの出会いですが、今回は各部門が芝生広場に集まり、顔を見合って話し合い、親密な交流ができたことは成果でした。



さらに充実した活動を

芸能Ⅲ部門

伊藤 好子

(伊藤好子ダンシングステップ)



相互が交流し合うことも出来たように思います。実行委員の方々会員の皆さんの積極的な取り組みの成果の結晶したものではないでしょうか！これをステップに、芸能Ⅲ部門の個性的な持ち味を生かし一体感のある舞台作りを参加者全員目指していきます。

文化活動は心のビタミン！これからも桑名市から質の高い文化の香りをエネルギーに発信させていきましょう。

第12回桑名市民芸術文化祭が10周年となる節目の本年。野外ステージに集まろう！でスタートしました。今までの舞台発表とは違い様々な事を心配しながら本番を迎えました。すばらしい天気になけないように青空の下、桑高吹奏楽部とモダンバレエキッズのジョイント。フラダンス、フラメンコ、ジャズダンス、4団体100名の個性豊かなステージ発表となりました。日ごろの練習の成果を沢山の皆さんに見て頂く事が出来ました。又各部門の発表を見ることもでき、会員



新春懇親会

副会長 今村 和子

2月11日の午前11時30分より、桑名市文化協会の新春懇親会が開催されました。

これは加藤会長が異なるジャンルの活動をしている会員相互がもっとよく知り合い理解し合う事も文化協会の目的ではという考えに沿った初めての試みです。

約百名の会員が、部門や加入団体にとらわれず個人の意思での参加となりました。

自分の分野以外の文化も見て、聴いて、体験する、その事が会員の相互理解につながり、ひいては文化協会の存在意義にもなるのではないかと思います。

加藤会長の挨拶に始まり、市長



代理の小津嘉彦教育長様に祝辞を頂戴し、佐藤勤三初代会長の乾杯の音頭で楽しいひとときは始まりました。会員の中からの三重県文化奨励賞の受



賞者・桑名市文化功労者の紹介をし、皆で共にその受賞を喜びあいました。

その後、桑名吹奏楽団による演奏とフラダンスのグループによるダンスを楽しみました。

その後、参加者全員でフラダンスの体験、2つのグループに分かれての輪唱等、身体と声を使い、学生時代に戻ったような気分になられた方もいらしたとのことだと思います。

この様にただ集って飲み食いするだけの懇親会ではなく、会員全員での参加型にする事が少しだけ出来た事、何か新しい波が来ているように思われませんか？

スプリング・フェスタ、盛会

(春の文化市場を改称して)

2月28・29日 桑名シティホテルにて

趣味教養部門 山田 尚子(藤工房・アメニティラタン)

今年で6回目になりますこの催しは、当協会加盟団体や市民の文化団体の皆さんと、ジャンルを問わず一堂に会して、展示・演技の発表を行い、交流親睦を図ることにより、お互いの技量向上に役立てようという試みで始めたものです。

いつもは市民会館のロビーとステージを使っていたのですが、開催が困難となり、会場を移しました。内容は1年間かけて検討をしてきただけに、なごやかな中に見応えあるものばかりで、大成功でした。

ちなみに出演団体は、桑名マンドリン倶楽部、フィ・フラ・オ・レイアロハ桑名、クラシックレーズ・スタジオ、アートスタジオ・モラ、フレンド・キルト、ツールペインティング&オランダフォークアート・ポーセラーツ、書藝神彩会、着付け(白樺会、藤工房・アメニティラタン、日本アマチュア将棋連盟東海ブロックくわな・花憐(カレン)の11団体です。



平成 16 年度月釜日程表

と き 午前 10 時～午後 3 時 30 分

ところ 桑名市六華苑 離れ屋、番蔵棟

開 催 日	茶道担当流派	華道担当流派
平成16年 4 月 18 日 (日)	裏 千 家	勅使河原和風会
5 月 16 日 (日)	煎茶松風流	中山文甫会 サークル
7 月 18 日 (日)	松 尾 流	石 田 流
9 月 19 日 (日)	表 千 家 流	MOA山月光輪花
10月 17 日 (日)	遠 州 流	草 月 流
平成17年 1 月 16 日 (日)	松 尾 流	小 原 流
2 月 20 日 (日)	表 千 家 流	竹 真 流
3 月 20 日 (日)	裏 千 家	池 坊

文化協会行事 茶華道行事案内

茶華道部門 小川 章 子

(草月流)

月釜行事は年八回開催し、花展も九流がそれぞれの特色を出し空間演出をして居ります。花は一本でも部屋の雰囲気を変える力もありますが、より美しく見せるテクニク、集合させた美しさ、色彩感覚、創造力等それぞれの感性で見えていただき、殺伐とした現代に無になってしばし世情を忘れる境地もいいものです。是非気楽にお出掛け下さいませ。



桑名市文化協会育成補助金の募集について

桑名市文化協会では、芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付しますので、ふるってご応募ください。

★補助対象団体等

文化協会の個人及び団体会員で当該年度4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍一年以上の会員。

★補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

★応募の方法

文化協会事務局(教育委員会文化課内)で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。

★応募受付期間

平成16年3月1日～3月31日

(平成16年4月1日～平成17年3月31日の実施事業分)

★申請の制限

平成14年度・15年度に補助金を受けた会員は交付申請できない。

★お問い合わせ

桑名市文化協会事務局

(桑名市教育委員会 文化課内)

☎ 0594(24)1361

文化の振興に貢献

(本年度受賞者紹介)

本年度も、文化協会の会員である2名の方と1つの団体が文化の誉れ高い各賞を受賞されました。このうち桑名市文化功労者とされました西羽晃さんと桑名吹奏楽団の鶴飼幸吉さんより寄稿頂きましたので紹介致します。

★三重県文化賞(文化奨励賞)

森 一蔵さん

桑名萬古の作家として、東京・大阪・名古屋で毎年のように個展を開くと共に、海外でも個展を開いたり、陶芸展に出品するなど、日本の陶芸家としての地歩を築いている。また、四日市萬古焼赤絵付け伝統工芸士として通産大臣認定を受け、桑名萬古焼として三重県指定伝統工芸品認定も受けるなど、その活躍は大きな評価を受けている。

★桑名市文化功労者表彰

西羽 晃さん

多年にわたり桑名市文化財保護審議会委員として、市の文化財保護に貢献している。また、公民館歴史講座講師として桑名市民の指導にあたり、郷土歴史に対する認識の向上に努めている。三重県史などの編纂委員でもあり、郷土桑名のみならず三重県の歴史研究に尽力し、地域文化の振興に貢献した。平成13年度には、文化庁より地域文化功労者として表彰を受けている。

ひとりごと

社会文化部門 西羽 晃

(個人会員)

私は昨年に文化協会の役員を引退した。その私が今さら文化協会について文章を書くのは気が重い。だから関係のない随想めいたことを書いて責めを果たしたい。

私は二〇〇一(平成十三)年に六十五歳になった。その年は東海道宿駅制度制定四百年であり、桑名では慶長の町割から四百年という節目の年であった。この二つを記念する事業に取り組むことを、私の人生の目標としていた。

二〇〇一年を多忙の中で無事に終え

★桑名市文化功労者表彰

桑名吹奏楽団

桑員地区唯一の市民吹奏楽団として、本年度創立30周年を迎えた。定期演奏会、ニューイヤークンサート、成人式式典出演等地域に根ざした活動を地道に続けると共に、北勢地区の中・高校との交流演奏会等若い世代の育成も積極的に続けている。また、世界的な作曲家であるアルフレッド・リード氏に委嘱作品を依頼し世界初演するなど演奏水準も高い。

文化功労の

栄に浴して

音楽部門 鶴飼 幸吉

(桑名吹奏楽団)

私共桑名吹奏楽団は、昭和48年に桑名高校吹奏楽部OB14名を中心に結成されました。現在の団員は約40名。心底楽器が吹きたい、音楽を楽しみたいという仲間が集い、10代から40代後半までの幅広い年齢層で構成されております。

常任指揮者である藤永博幸氏のもと、日々楽器演奏の研究に取り組みながら、春にはポップスコンサート、秋には定期演奏会を開催しております。その他にも依頼演奏会や文化・スポーツ行事

への参加など、様々な方面での活動を続けてまいりました。

そして平成15年、当団は創立30周年を迎え、世界的に著名な作曲家であるアルフレッド・リード氏に記念曲を委嘱し、リード氏本人の指揮によりこの桑名の地で世界初演を行いました。記念すべき演奏会を華やかに成功し終える事ができましたのも、ご支援くださった地域の皆さまのおかげと心よりお礼を申し上げます。

そして団員一同、更なる大きな喜びとなりましたのが、桑名市文化功労団体として表彰していただくという輝かしい栄誉をいただいた事です。幾多の困難もありましたが、音楽と地元を愛する強い信念のもと、地域に根ざした活動をここまで続けてまいれる事ができました。この度の表彰は、ひとえに長年に亘る皆様方のご指導とご支援による賜物と、深く感謝を申し上げます。

これからもこの栄誉に甘んずることなく、より多くの方々に私達の演奏を聴いていただけるよう、より心のこもった演奏をお届けする努力をしてまいります。微力ではありますが、地域の音楽文化発展に寄与できます事を目標に、意欲を新たに活動をつづけていく所存です。

今後ともより一層のご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



文化祭野外ステージ

投詠投句賑わう

昨年十一月二日開催された桑名市民文化祭は、終日好天に恵まれ、展示関係デントにおいては短歌・俳句・川柳各部門とも活発な投詠投句が行われました。尚各部の入選作品は左記の通り決まりました。

俳句

一山を我がものにして紅葉宿

森内 利之

廃線の鉄路をあやす猫じやらし

梅原 幸吉

障子貼り佛間に白き光満つ

後藤のり子

幾筋も尾根を行く道芒原

菊田 眞佐

絵手紙の柿はみだして届きけり

田辺 勝美

川柳

文化祭妻ばかり追うカメラアイ

菊田 眞佐

菊の花無くして淋しい文化祭

伊藤 修

短歌

起きいだす母の杖の音ひびきあて

無事一日の始まるわが家

西羽加代子

米作りこれでやめると弟の

届けてくれたる新米におう

久保 正子

びったしのジーンズ履きて追い越し

ぬ脚なが小女のしなやかに

前田 誠子

連日の雨をふふみし畑の土

打ち振る鍬にすひつきてくる

山本 愛子

大河の流れ静かに見据えいる

蟠龍櫓の白壁の映ゆ

中村志奈子

方丈の建築進む梁のうえ

女人夫のこゑ歯切れよき

黒田美代子

歩き初めしみのりは両の手をひろげ

風に吹かるるてふてふのやう

近藤 光子

どうだんの枝にとまりし秋あかね

どちらが光に色を染めしや

今村 和子

合同作品集発刊を 振り返る

文学部門 梅原 幸吉

(あやめ会)

昨年十一月文学部門として、桑名市文化協会十周年記念事業の一環として短歌・俳句・川柳の三部門「合同作品集」を発刊した。(以下単に合同作品集という)

この事業が議題に上がったのは、十五年二月頃のことであった。

このように伝統文学の三部門が、合同して作品集を発表することは初めての試みであるという。

発刊するには、何をおいても資金はどうするかが先決である。

手持ちの積立金では予算の半分くらいしかなく、文化協会育成補助金の交付申請となるが、もし補助金の交付がなければこの計画も取りやめざるを得ないという悲壮なものであった。

四月はじめ、補助金交付決定通知があったが、各部門からだされた補助金申請額が多く、予算を大きく上回っていたため申請額から一律に削減しての交付であった。

やむなく補助金交付削減を睨み、当初計画した印刷本の紙質や表装の程度など各面を検討して何とか発刊できる見通しを立てることが出来た。ここで会員の皆さんから原稿を募

り全会員一七名の提出を待って、いよいよ発注までに漕ぎ着けたのは六月十六日の事であった。

発注して三度々四度の校正を経て次第にその姿が見えてくる事となるが、一方桑名市長、桑名市文化協会会長に作品集の序文をお願いしたところ、お祝いと励ましのお言葉を頂戴し、小冊子に花を添えて頂くこととなったのである。

このようにして関係各位のご指導と、会員の皆様のご協力により、あの合同作品集が出来ましたことを会員一同の喜びとしたところである。

合同作品集の編集後記に、この企画が各部門内はもちろんのこと、部門間においても何らかの刺激となり、夫々の部門の発展に寄与すればと願って止みません。

そして文化協会文学部門の一員として、十年間の足跡をこのような形で残し得たことは、会員一同にとって何物にも代え難い喜びであろうと思います。と記されている。

この合同作品集は、企画から編集後記まで、前任理事伊藤文郎氏の終始の先導を頂戴したことによって上梓出来たものであることをここに付記する。



桑名ええとこ再発見

社会文化部門
大河内 浩

にしせんばちよう
西船馬町かいわい

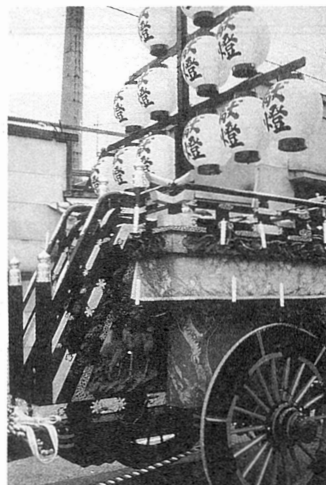
(個人会員)

桑名市街を七里渡口より南へ向かって東海道が通っていました。船馬町はこの七里渡口より西へ延びる町で東西に分称します。中でも西船馬町は、北側を揖斐川から続く広い堀割に對岸し、江戸時代より材木商が軒を連ねて、「材木町」とか「蔵前」とか俗称されてきました。

この広い堀割は、三十年程前までは一面材木が浮かんで貯木場のようなになっていましたが、旧桑名城の惣堀で、西端の玉重橋より南へ折れて寺町・吉津屋町方面へ続いています。近年この玉重橋の改修工事をはじめ、



西船馬町祭車庫



石取祭車

旧桑名城惣堀の修景が進んで公園のように整備されました。北側には諸戸邸を望み、夜はライトアップされるなど、恰好の散策路です。

玉重橋の傍には西船馬町の石取祭車庫があります。その昔は玉重稲荷神社がありました。大正十五年に揖斐川畔の住吉神社へ合祀された後、この車庫が桑名で三番目の鉄筋コンクリート製建物として建造されました。昨年春に同町役員の画家による原画で、桑名城・住吉神社鳥居から見える日の出・西船馬町祭車の三つの絵を合成して焼付けられたシャッター扉で、この界隈の新しい名所となりました。

また、ここに収蔵されている西船馬町石取祭車は桑名市有形民俗文化財に指定されており、毎年八月の桑名春日神社の石取祭で見られます。

桑名市文化協会への入会方法

桑名市文化協会は、広く市民の文化活動並びに文化事業の振興と連帯感の育成を図り、もって市民の豊かな文化の創造と発展並びにふれあい豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に活動しております。

この目的に賛同していただける方を募集しています。

普通会員文化活動を行っている団体及び個人

特別会員本会の目的並びに事業を賛助する団体及び個人

入会するには、事務局（教育委員会文化課内）にある入会申込書に必要事項を記入し、ご提出ください。理事会の承認を得て入会となります。

第12回総会予告

日時 平成16年5月16日(日)

午前9時30分から受付午前9時から

会場 桑名市民会館 大会議室

内容 平成15年度事業経過報告について

平成15年度収支決算および

監査報告について

平成16年度事業計画について

平成16年度収支予算について他

☆各部門ごとに代議員の選出をしていただきます。詳しくは、各部門長から連絡します。

編集後記

早いものです。広報の年2回発行を試みて3年目を迎えました。

確か、広報委員会で「結果だけでなく、予告内容も載せたい」という意見があつて始めました。

委員のほとんどが未経験だったこともあり、原稿が集まるだろうかなど不安がありました。ワイワイガヤガヤしながら終わりました。会員のみなさんのご協力に感謝しています。

(西村)



広報担当常任理事
委員

文学部門	西村 邦彦
美術部門	根来 毅
音楽部門	牧野 京二
芸能I部門	加藤 卓
芸能II部門	松尾 廣文
芸能III部門	谷口八洲江
茶華道部門	伊藤 好子
演劇部門	上木美代子
社会文化部門	小川 秀樹
趣味教養部門	大河内 浩
子ども文化部門	岡野 明美
	小松理英子